

子どもの成長に果たす絵本の役割

— 今こそ 大人も 子どもといっしょに 絵本を読もう —

吉村 真理子

食べ物が子どもの身体を育てるように、小さいときからずっと接してきた絵本や物語が、その人の感性や性格、趣味、審美眼などを作っていないでしょうか。

1. 言葉と絵で物語を伝える

幼児は、わずかな言葉を聞きながら、それが表す世界の広がりや、自分でイメージを描くには経験が乏しいので、物語の展開するステージや季節、登場人物の性格や感情を絵から読み取っています。つまり、絵本のテキストは短いので、その行間を絵が埋めているのです。

2. 美しさ(色、形、線、レイアウトなど)を鑑賞する

芸術に触れる機会を提供し、きれいだな、いいなという感覚や感性を育てる。

3. 認知、認識、知的好奇心、因果関係、言語表現などを育てる

4. 読んでくれる人との親密な人間関係、一体感、幸福感を味わう、その人の声で美しい母国語を知る

5. 1~4をひっくるめて

- ・ 人はどう生きるのか、人間とは何なのか。
- ・ この世界(自然や社会)はどんなところか、どう付き合っていけばいいのか。
- ・ 現実にはない世界(時間や空間を越えて)があることを知る(想像力)。

絵本や児童文学は誰のために書かれているのでしょうか

作家の動機は、わが子のように特定の子どものために書いたものが、やがて広がって全世界の多くの子どもたちに読まれるようになりました。子ども全般を対象にするのではなく、固有名詞をもった生きた子どもが対象であることが、大人の文学との違いです。

- ・ 絵本を子どもに買ってやり読んでやる大人のためにも
- ・ それを聞いている兄弟や祖父母のためにも、すべての人間のためにも
- ・ 絵本は目を閉じて開くものではなく、目を見開いて見るもの
絵を読む、色に出会う
- ・ 絵本はずうっと取っておき、何度も何度も繰り返し眺めるもの
リピートこそ、子どもの世界を確かなものにしていく力
- ・ 絵本はどれくらい長い時間をかけて読むのでしょうか
一瞬は長い記憶、永遠より長い一瞬
年月を経て読み返すとき、成長した自分になっていることに気づく

